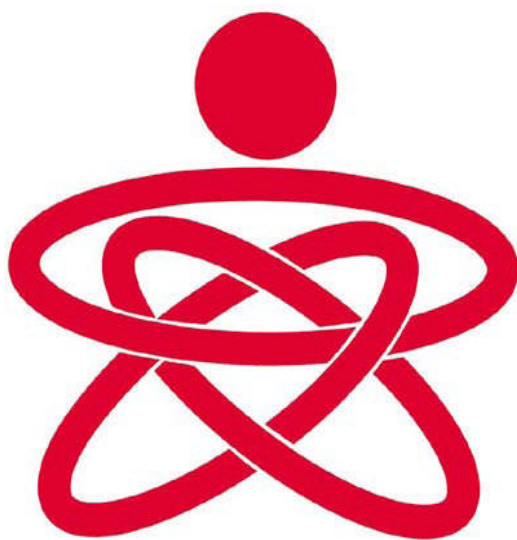


**平成23年度  
第1回 ミュージアム・エデュケーター研修  
(前半日程)**

**テキスト・資料集**



主催：文化庁

共催：東京国立博物館・独立行政法人国立美術館

日程：前半／平成23年9月26日（月）～28日（水）

後半／平成23年2月6日（月）～7日（火）

会場：前半／東京国立博物館 小講堂

後半／国立新美術館 研修室

平成23年9月 文化庁

# 目 次

- p 1～ ①講義「法制度の現状～博物館の社会的役割～」
- p 2～ ②講義「我が国の博物館事情～教育普及を中心に～」
- p 14～ ③講義「博物館教育事情～物語、共感、生きる意義の探求、情報化社会のその先へ」
- p 17～ ④講義「博物館と博物館ボランティア」
- p 19～ ⑤講義「博物館利用者の実態と対応」
- p 20～ ⑥ワールドカフェ
- p 23～ ⑦講義・事例報告「学校と博物館の『連携』」
- p 25～ ⑧教育プログラム体験 I 「盲学校のためのスクールプログラム」
- p 26～ 同 上 II 「屏風に物語をつくりだす鑑賞プログラム  
－洛中洛外図屏風と江戸図屏風を題材に」
- p 27～ 同 上 III 「貝体新書：おとなが学ぶ二枚貝  
－参加者が経験をもとに科学的推理をするプログラム」
- p 28～ ⑩⑪グループワーク

①講義 (26日／10:15～10:55)

## 博物館法制度の現状－博物館の社会的役割－

文化庁文化財部美術学芸課長  
栗原 祐司

- 近年の我が国の博物館の傾向
- 我が国の博物館の抱える課題
- 美術館・博物館をめぐる制度改革の動き
  - ・ 博物館法の改正と今後の課題
  - ・ 指定管理者制度の課題
  - ・ 地方分権第2次一括法
  - ・ 展覧会における美術品損害の補償に関する法律
  - ・ 海外の美術品等の我が国における公開の促進に関する法律
    - ・ 「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」の改定の検討
- 学芸員養成制度の見直し
  - ・ 「博物館教育論」の必修化
  - ・ 学習指導要領における博物館

②講義 (26日／11:05～12:00)

## 我が国の博物館事情～教育普及を中心に～

株式会社 丹青研究所文化空間情報開発研究

石川 貴敏

## 我が国の博物館事情 ～教育普及を中心に～

平成23年度 ミュージアム・エデュケーター研修

平成23年9月26日  
株式会社 丹青研究所 石川貴敏

コピーライト© 2011, Tansel INSTITUTE

1

**アンケート調査報告（平成22年度文化庁事業「博物館の教育機能に関する調査研究」より）**

**日本の博物館における教育普及事業の現状について**

**日本の博物館におけるエデュケーター（教育担当専門職員）の現状について**

**アンケート調査報告（調査概要）**

● **調査内容**

次の3つの事項について、アンケート調査を実施した。

- ・ 博物館における教育普及事業の在り方と実態
- ・ 博物館の教育機能の向上方策
- ・ エデュケーターの養成方策

調査内容	目的
博物館における教育普及事業の在り方と実態	次のような博物館における教育普及事業の実態を把握する ・ 先進的な取り組みを行っている博物館 ・ 教育普及事業に積極的に取り組んでいる博物館
博物館の教育機能の向上方策	・ これからの博物館の教育機能を向上させる上で、必要な方策を検討し、指針をまとめる
エデュケーターの養成方策	・ 国内の博物館における教育担当専門職員（ミュージアム・エデュケーター）の実態を把握する ・ エデュケーターに求められる資質、知識・経験、技能を明らかにし、求められるエデュケーター像に基づいた養成方策について検討する

●調査対象と回答者の条件

調査対象は、次の2つの観点から施設を選定した。

- ・教育担当専門職員を配置していると思われる施設、教育普及部門を有していると思われる施設
- ・県庁所在地、政令指定都市などに所在する主要な博物館（登録博物館等）など

調査対象	回答者の条件
国内の主要な博物館 ●館種 ・美術系博物館 ・歴史系博物館 ・総合博物館 ●設置主体 ・国公立 ・私立	●教育普及事業との関わり ・教育普及部門に在籍する職員 ・教育普及事業を担当する職員 ・教育普及事業に関心を持っている職員 ●雇用形態 ・正規職員、常勤職員 ・非常勤職員、嘱託職員、臨時職員 ●人数 ・教育担当専門職員（ミュージアム・エデュケーター）の養成に関する調査事項は、1館3人まで回答可能

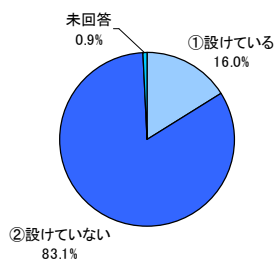
●回収結果

配布数	回答回収数	回答回収率
1,000館	657館	65.7%

■アンケート調査報告（調査結果）

●教育普及事業を担当する職員の状況

■教育普及事業を担当する専門部署（n=657）



■教育普及事業を担当する職員数

専門部署の職員数

※専門部署を設けていると回答(n=103)

教育普及事業専門部署の職員数(人)	
平均値	5.2
中央値	4
最大値	19
最小値	1
合計値	536

教育普及事業を担当している実際の職員数(専門部署以外の職員を含む)

※専門部署を設けていると回答(n=96)

教育普及事業を担当している職員数(人)	
平均値	8.9
中央値	6
最大値	53
最小値	1
合計値	855

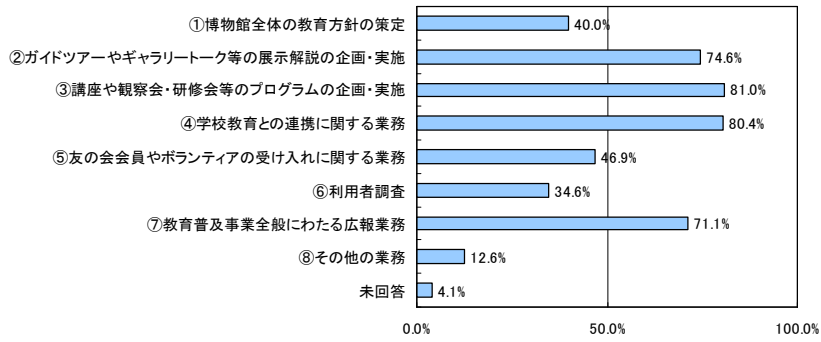
教育普及事業を担当している職員数

※専門部署を設けていないと回答(n=482)

教育普及事業を担当している職員数(人)	
平均値	3.2
中央値	3
最大値	20
最小値	1
合計値	1539

## 我が国の博物館事情 ～教育普及を中心に～

■教育普及事業を担当する職員の職務内容(n=657)＜複数回答可＞

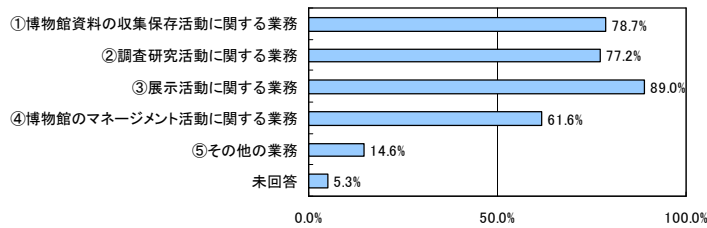


(c) 2011, Tansei INSTITUTE

6

## 我が国の博物館事情 ～教育普及を中心に～

■教育普及事業を担当する職員の職務範囲(n=657)＜複数回答可＞



※業務の事例

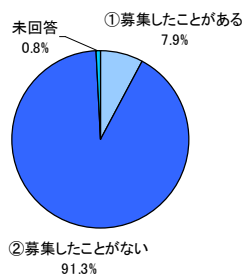
① 博物館資料の収集保存活動に関する業務	資料の収集、資料の分類・整理・保管、データベースの整備 等
② 調査研究活動に関する業務	資料に関する調査研究、その他調査研究、論文執筆、学会への出席 等
③ 展示活動に関する業務	常設展示の維持管理、常設展示の更新等に関する立案・構成・実施、特別・企画展示の立案・構成・実施 等
④ 博物館のマネージメント活動に関する業務	経営、管理（博物館の評価活動を含む）、営業、広報活動（情報公開を含む） 等

(c) 2011, Tansei INSTITUTE

7

## 我が国の博物館事情 ～教育普及を中心に～

■最近3カ年(平成19・20・21年度)における教育普及担当専門職員の募集状況(n=657)



■教育普及担当専門職員の応募者数と採用者数

最近3カ年の応募者数の合計  
※募集したことがあると回答(n=35)

最近3カ年の応募者数	合計(人)
平均値	13.7
中央値	3
最大値	176
最小値	1
合計値	479

最近3カ年の採用者数の合計  
※募集したことがあると回答(n=49)

最近3カ年の採用者数	合計(人)
平均値	2.0
中央値	1
最大値	9
最小値	1
合計値	96

最近3カ年の常勤採用者数の合計  
※募集したことがあると回答(n=48)

最近3カ年の常勤採用者数	合計(人)
平均値	0.4
中央値	0
最大値	3
最小値	0
合計値	20

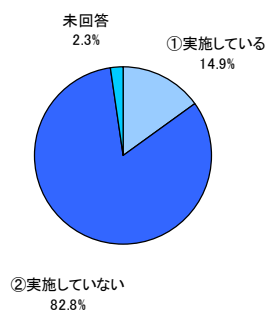
最近3カ年の非常勤採用者数の合計  
※募集したことがあると回答(n=48)

最近3カ年の非常勤採用者数	合計(人)
平均値	1.5
中央値	1
最大値	9
最小値	0
合計値	74

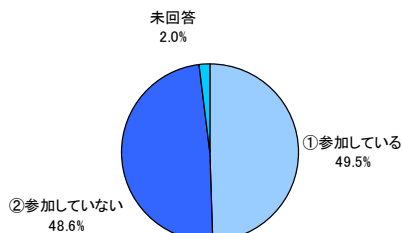
## 我が国の博物館事情 ～教育普及を中心に～

### ●教育普及事業を担当する職員の養成・育成

■教育普及事業に関する館内研修などの実施(n=657)



■教育普及事業を担当する職員の館外研修への参加(n=657)





## 我が国の博物館事情 ～教育普及を中心に～

### ■館外研修に参加していない(できない)理由

理由	回答例
時間がない	・各学校等との調整等で忙しい ・資料館運営が文化財行政と兼務である
予算がない	・参加のための予算が設けられていない ・研修旅費予算がなく、長期の研修に参加しにくい
人手が不足している	・職員数が極端に少ない ・ローテーションにより交替勤務体制を取っている
情報が不足している	・積極的に情報を入手していない ・教育普及に関して他の団体等との交流がないため、そのような研修や研究会の情報がない
日程が合わない	・近郊の外部地域で、そのような研修や研究会が極めて少なく、開催されても年1回程度、その日に日程が合わず出席できない ・参加できる日程で適当な研修・研究会を見つけることができなかった ・土・日の研修会が多く、出勤日であるため参加が難しい
会場が遠い	・参加可能な近隣市町村を会場とした研修が行われていない ・遠方での開催には費用が負担できない
参加したい内容でない	・魅力的なテーマが少ない ・館の方針・目的に合う研修・研究会がない ・興味なし(意義を感じない)
その他	・教育普及事業を専門に担当する職員がいない ・教育普及担当者は、当館に就職する以前に相応の知識・経験を身に付けている ・教育普及をテーマにした研修自体がほとんどない

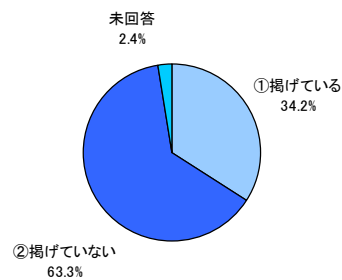
(c) 2011, Tansai INSTITUTE

10

## 我が国の博物館事情 ～教育普及を中心に～

### ●教育普及事業の理念、基本方針、到達目標など

#### ■教育普及事業の理念などの有無(n=657)

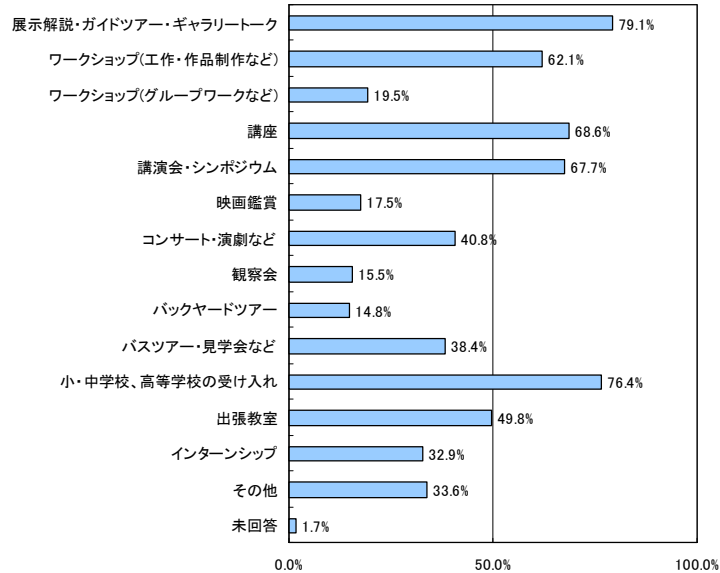


(c) 2011, Tansai INSTITUTE

11

●教育普及事業の実施状況

■平成21年度における教育普及事業の実施状況(n=657) <複数回答可>



(C) 2011, Tansei INSTITUTE

12

●教育普及事業の実践における課題・問題点

<p>●職員に関する課題・問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員数が減少傾向にある</li> <li>・職員数が少ないため、教育普及の専門部署を設けることができない</li> <li>・様々な業務を兼任している職員が多いため、教育普及事業に専念できない</li> <li>・職員の異動や配置換え、不安定な雇用形態などにより、継続的な事業を推進できない</li> <li>・職員によって、教育普及事業に対する意欲や取り組みに差が見られる</li> <li>・研修に参加する機会を持っていないなど、人材育成が難しい</li> </ul> <p>●立地・施設に関する課題・問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立地やアクセスの条件が、利用者獲得や事業推進の妨げになっている</li> <li>・教育普及事業を行う施設や設備が不十分である</li> </ul> <p>●運営に関する課題・問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政組織内における博物館の位置付けが明確でない</li> <li>・館内組織における教育普及部門の位置付けが明確でない</li> <li>・館内組織において協力体制が構築されていない</li> <li>・教育普及事業関連の予算が削減され、不足している</li> <li>・支援組織であるボランティア等の活用や育成が十分でない</li> <li>・効果的な広報の方法がわからない</li> </ul>	<p>●教育普及事業の推進に関する課題・問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育普及事業の位置付けや理念、方針が明確に定められていない</li> <li>・長期的展望に立って、教育普及事業の理念や方針が定められていない</li> <li>・プログラムを企画・開発する上での指針や方法論が十分でない</li> <li>・利用者層毎のプログラムを開発したい</li> <li>・事業評価を実施し、事業効果を検証することが必要である</li> </ul> <p>●学校利用に関する課題・問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館や教育普及事業に対して、学校や教員の関心や理解が希薄である</li> <li>・学校との連携や協力体制が十分でない</li> <li>・美術教育などの時間が削減され、充実したプログラムを提供することが難しい</li> <li>・学校のカリキュラムと博物館教育の間に齟齬が見られる</li> <li>・地域内にある全学校からの利用が達成されていない</li> <li>・来館のためのアクセスを確保することが難しい</li> <li>・高等学校の利用が少ない</li> </ul>
---	---

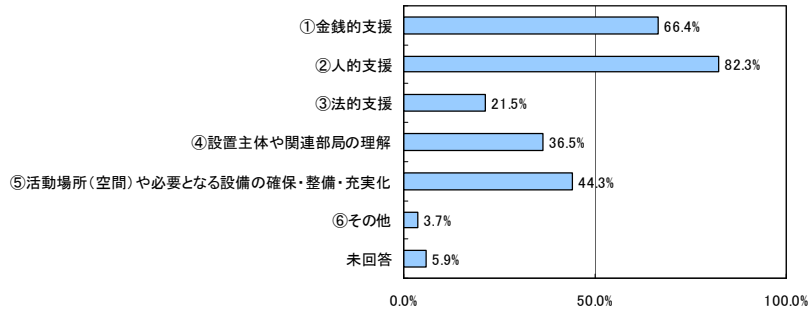
(C) 2011, Tansei INSTITUTE

13

## 我が国の博物館事情 ～教育普及を中心に～

### ●教育普及事業を実践するために必要な支援

■教育普及事業を実践するために必要な支援(n=657) <複数回答可>



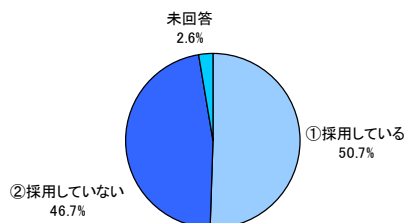
(C) 2011, Tansel INSTITUTE

14

## 我が国の博物館事情 ～教育普及を中心に～

### ●ボランティアの状況

■ボランティアの採用の有無(n=657)



■ボランティアの採用人数

※採用していると回答(n=312)

ボランティアの採用人数(人)	
平均値	52.4
中央値	31
最大値	758
最小値	1
合計値	16354

(C) 2011, Tansel INSTITUTE

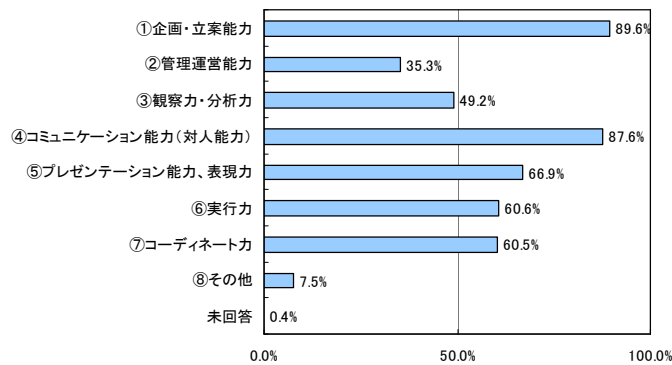
15

●ミュージアム・エデュケーターに対する認識

■アンケート調査への回答より

- コレクションが具現する芸術・文化に対する哲学、また、それを享受する人間を育てることに対する哲学がなければ、エデュケーターはミュージアムの中で、あんな事も、こんな事も、と断片的なイベントを繰り返して満足しているような存在になってしまう。エデュケーターとは、収集、保存、展示、調査研究がなされた後の添え物ではないし、イベント係でもない。教育普及の理念は館活動全体の中に生かされ、教育普及の観点からの収集、展示が成されるべきである
- 学芸員とミュージアム・エデュケーターとの差をどのように定義しているのか良く分からないので、明文化も必要
- 自称「ミュージアム・エデュケーター」以上の存在根拠を整備して欲しい
- 「ミュージアム・エデュケーター」の定義が曖昧。解説員、学芸員のどちらを指すか。インタープリターとミュージアム・エデュケーターなど、カタカナ語の理解にとまどう
- ミュージアム・エデュケーターとしての身分保証が何かの形でなされないと、養成講座を作ってもその立場を保ち続けられず、博物館の業務として定着できないだろう。結局、学校籍職員等の片手間仕事の域という認識を改めさせる外部からの工夫がないと、様々な支障が生じると思う
- 教育指導要領（総合的な学習の時間等）で、学校現場が博物館のミュージアム・エデュケーターを積極的に活用するように明記してほしい

■教育担当専門職員に求められる資質 (n=709) <複数回答可>



## 我が国の博物館事情 ～教育普及を中心に～

### ■教育担当専門職員に求められる資質<「その他」の主な回答>

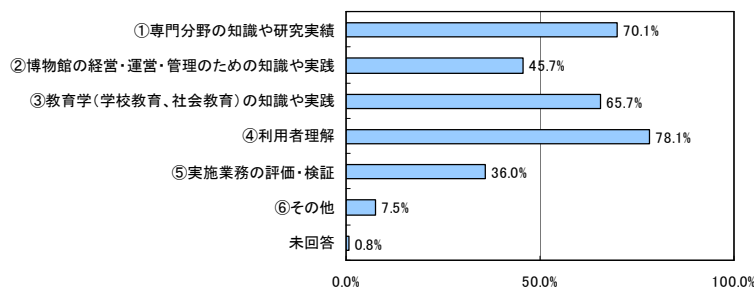
<ul style="list-style-type: none"> <li>●管理運営能力に関すること                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアや非常勤職員を管理・支援する</li> <li>・コーチング能力</li> </ul> </li> <li>●観察力・分析力に関すること                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現することの意味を多角的に見る</li> <li>・社会の変化を敏感に捉える力</li> </ul> </li> <li>●コミュニケーション能力（対人能力）に関すること                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のニーズを読み解く力</li> <li>・利用者の関心を引き出す力</li> <li>・専門用語を使わずに利用者に理解してもらう力</li> <li>・あらゆる参加者を差別なく公平に、自身と対等にみることのできる力</li> </ul> </li> <li>●教育に関すること                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階に応じたアプローチ方法</li> <li>・目的に合った学習活動を実践するための教育技術</li> <li>・人間を教育するとは如何なることかという哲学があること</li> <li>・利用者の学びについて考え続けられる能力</li> <li>・学校現場の状況をよく知っている</li> <li>・学習指導要領を理解している</li> <li>・学校教育との違いを知る</li> <li>・利用者の側にとって、継続的に物事を考えられる能力、ひらめき能力</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●博物館やその業務に関すること                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・その機関（施設）の使命を理解し、継続する能力</li> <li>・博物館の持つ特性や魅力を普及事業へと変換する力</li> <li>・博物館の収蔵品が具現する芸術・文化への理解（感受性、学問への尊敬）</li> <li>・作品の理解力・鑑賞力、美術・芸術に対する愛と敬意</li> <li>・実施した教育普及活動の評価・効果・反省などの分析</li> <li>・公開のノウハウを有すること</li> <li>・学芸の活動に対する理解と知識を持つ意欲</li> <li>・教材や作品をかみくだき、子どもに伝えやすくする力</li> </ul> </li> <li>●その他                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・選択肢①～⑦をバランス良くこなす能力</li> <li>・（①～⑦の選択肢は）全て必要</li> <li>・体力、忍耐力、情熱、熱意、好奇心、意欲、感性、発想力、交渉力、長期的視点 など</li> </ul> </li> </ul>
---	---

(c) 2011, Tansai INSTITUTE

18

## 我が国の博物館事情 ～教育普及を中心に～

### ■教育担当専門職員に求められる知識・経験(n=709) <複数回答可>



(c) 2011, Tansai INSTITUTE

19

## 我が国の博物館事情 ～教育普及を中心に～

### ■教育担当専門職員に求められる知識・経験<「その他」の主な回答>

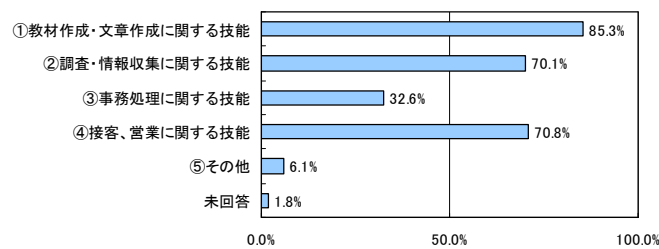
<ul style="list-style-type: none"> <li>●専門分野に関すること                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・所蔵資料に関する正しい認識</li> <li>・展示に関する知識</li> <li>・その博物館や美術館が対象とする資料、作品の取り扱いについての知識や実践</li> <li>・ワークショップデザインの知識・経験</li> <li>・たくさんの作品、展覧会、作家、来館者に会うこと</li> <li>・博物館学に関する広い学識</li> <li>・普及活動そのもの実践</li> <li>・制作技法についての知識</li> </ul> </li> <li>●教育学（学校教育、社会教育など）に関すること                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員経験</li> <li>・学習心理学、発達心理学、カウンセリングの知識</li> <li>・学校現場等との人的ネットワーク</li> <li>・学校教育における博物館利用方法の実践</li> <li>・インフォーマルラーニング、教育目的のICT利用の知識・経験</li> <li>・幼児教育の知識や実践（子育てを含む）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●利用者理解に関すること                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が楽しく学べるための知識、プレゼンテーション能力、企画力、実行力</li> <li>・各世代（幼児から青少年）との交流・ふれあい</li> </ul> </li> <li>●その他                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・語学力</li> <li>・海外博物館従事経験</li> <li>・専門分野外や社会問題への興味・関心</li> <li>・一般常識</li> <li>・地域社会の実状把握</li> <li>・専門を踏まえながら、実際の事業に発展させるような知識・経験</li> <li>・現場での経験</li> <li>・ボランティア経験、社会経験 など</li> </ul> </li> </ul>
---	---

(C) 2011, Tansai INSTITUTE

20

## 我が国の博物館事情 ～教育普及を中心に～

### ■教育担当専門職員に求められる技能(n=709) <複数回答可>



### ■教育担当専門職員に求められる技能<「その他」の主な回答>

<ul style="list-style-type: none"> <li>●教材作成・文章作成に関する技能                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的なことをわかりやすく書く、説明する技能</li> </ul> </li> <li>●接客、営業に関する技能                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に応じた話し方とわかりやすさ</li> <li>・児童・生徒・学校の実態に応じて対応する能力</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●その他                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン・画像・映像加工処理ソフトウェアに関する技能</li> <li>・ハシゴ登り、大工仕事ほか、手先の器用さ など</li> </ul> </li> </ul>
--	--

(C) 2011, Tansai INSTITUTE

21

## 日本の博物館における教育普及事業の現状について

- 教育普及事業の理念、基本方針、到達目標などを掲げている館は、少数である
- 教育普及部門の位置付けが明確でない館が多い
- 教育普及事業を担当する専門の部署を設けている館は、少数である
- 教育普及事業を担当する職員の多くが、教育普及以外の業務も兼任している
- 教育普及事業を担当する職員の採用は、機会も採用人数も極めて少ない
- 教育普及事業を担当する職員を採用しても、雇用形態は非常勤が多い
- 職員の異動や配置換えにより、継続的な事業の推進が困難である
- 教育普及事業を行う施設や設備が不十分な館がある
- 教育普及事業関連の予算が削減傾向にある館が多い
- 博物館や教育普及事業に対する利用者の理解や関心が薄いと感じている館がある
- 教育普及に関する館内研修の実施が少ない
- 教育普及に関する館外研修に参加できない主な理由は、時間・予算・人手不足である

## 日本の博物館におけるエデュケーター（教育担当専門職員）の現状について

- ミュージアム・エデュケーターの捉え方が人によって異なる
- ミュージアム・エデュケーターという職に就いている人は少ないが、教育普及事業に関わっている職員は多い
- 教育普及事業を担当する職員であっても、研究を主体とする学芸員、教育普及事業に主体的に関わっている学芸員など、様々である
- 専属のミュージアム・エデュケーターを配置している館は少なく、期間を限定してエデュケーターを雇用する館も見られる
- 海外のミュージアムで学ぶなど、高い専門性を備えたミュージアム・エデュケーターも見られるようになった
- ミュージアム・エデュケーターはノウハウを持っているが、まだ地位は確立していない

### ■ エデュケーター（教育担当専門職員）に必要なもの

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● コミュニケーションに関する能力や技能                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 博物館利用者のニーズを読み取ることができる</li> <li>・ 博物館利用者に展示内容などをわかりやすく伝えることができる</li> <li>・ 多様な利用者層に対応することができる</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 博物館や専門分野に関する知識・経験</li> <li>● 社会経験や実践経験</li> <li>● 教育に関する知識・経験                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 博物館教育、及び学校教育に対する理解、知識・経験</li> <li>・ 博物館と学校教育の違いを認識している</li> </ul> </li> </ul> |
|--|---|

③講義 (26日/13:00~13:50)

博物館教育事情～物語、共感、生きる意義の探求、情報化社会のその先へ

東京都美術館アート・コミュニケーション担当係長  
稲庭 彩和子  
(株)美術出版社「美術検定」事務局  
高橋 紀子

■メトロポリタン美術館 (MET)

- ・ 1870年開館、収蔵品300万点
- ・ 年間21,435の教育プログラムが開催  
→入場者数約520万人のうち、プログラム参加者は82万7000人

参加者の年代に合わせて教育プログラムを構成、数多く開催

<http://www.metmuseum.org/learn>

- ーキッズプログラム (小学生までのプログラム)
- ーティーンズプログラム (10代の中高生のためのプログラム)
- ーカレッジステューデントプログラム (大学生のためのプログラム)
- ーエデュケーターズプログラム (教員用プログラム)
- ーファミリープログラム (家族向けプログラム)
- ーアダルトプログラム (大人向けプログラム)

障がい者向けプログラムは、視覚障がい・聴覚障がい・発達障がい・認知症とその  
介護者向けプログラムを展開

■ニューヨーク近代美術館 (MoMA)

- ・ 1929年開館 収蔵品15万点 (映画は2万2千点)

教育プログラムはメトロポリタン美術館と内容の差はないが、近現代美術を取り扱って  
いるという点でメディアの活用が目立つ

<http://moma.org/learn/index>



## (1) メディアの活用 一人々と作品をつなぐ回路の作り方

### ◎ミュージアムの物語化

個人的な体験や一人称の物語は重要な学びの手段

### ■メトロポリタン美術館 (MET) のメディア展開

○IT化 → アーカイブ化 → 物語化

○分析／部分 → 全体性

例1)「コネクションズ」<http://www.metmuseum.org/connections/>

METのスタッフが、METのコレクションからひとつ作品を取り上げ、自分の歴史とその作品との関連性を説明、HP上に動画で紹介

○作品のデータベース化 → 歴史の中の位置づけ (In Time)

地理的な把握 (In The World)

美術館での展示場所 (In The Museum)

例2)「ファミリーマップ」<http://www.metmuseum.org/learn/for%20kids/family%20map>

美術館のフロアプランと作品の位置がイラストで紹介、将来的には作品のデータベースとリンクした展開を予定

○facebook、TwitterなどSNSを活用した広報 <http://www.facebook.com/metmuseum>

→ 学生向けのプログラムなどはfacebookが主な広報ツールとなっている

## (2) アクセスプログラム～認知症、アルツハイマー患者とその介護者へのアプローチ

### ■二つのミュージアムのアクセスプログラム

#### <MET>

##### MET Escapes

<http://www.metmuseum.org/en/events/programs/programs-for-visitors-with-disabilities/visitors-with-dementia-and-their-care-partners>

#### <MoMA>

##### Meet Me at MoMA

<http://moma.org/learn/disabilities/dementia#course1>

このプログラムはThe MoMA Alzheimer Project (MoMAアルツハイマープロジェクト)として認知症、アルツハイマーの美術鑑賞による治療効果の研究としてアメリカ国内で発展

### ○アクセスプログラムの意義

「何より一番の効果は、作品、そしてエデュケーターという中立的な立場の人を媒介に、さらに同じ病を持つ患者やその介護者、といった問題を共有できる人々とのかかわりができたことではないだろうか。」

—MoMA・アクセスプログラム担当者へのインタビューより

⇒作品を介して共有することで、やわらかな形で個々の物語が共有され、共感が生まれ、患者自身や介護者の生きる意義の探求につながっていく。

### (3) ミュージアム体験

#### ○日々の生活から離れ、立ち止まる時間を作る

→日常を超えた、より広い視野をもって物事をとらえられる

#### ○作品を媒介にすることで深い問題を真摯に受け止めやすい環境ができる

→生きる意義の探求

古来より、神社仏閣、教会などで、美術を通して「人間とは何か?」「生命とは何か?」「宇宙とは?」と、人間と神の関係を考えてきた歴史

### (4) エデュケーターに求められるもの

- ・ 基本的なビジネススキル
- ・ モノの分析 → 全体性を把握して伝える力
- ・ 共感し、人間関係をつくる力
- ・ オープンマインド
- ・ 新しい課題に取り組む意欲

④講義 (26日/14:00~14:50)

## 博物館と博物館ボランティア

三重県立博物館館長  
布谷 知夫

「ボランティア」を話題にしながら、博物館にとっての利用者、特に最も博物館に近く、うまく活用している利用者としてとらえ、博物館の利用者に対する姿勢の問題として考えてみたい。

### 1 博物館ボランティアの現状

最も初期の博物館ボランティア(日本博物館協会)

日本民藝館(1936年・昭和11年)

記念館三笠(1961年・昭和36年)

北九州市美術館・静岡県立美術館などの展示解説(1970年代後半)

全国的な広がり(1990年代)

阪神淡路大震災・ボランティア元年(1995年)、ナホトカ号(1997年)

20年社会教育調査 ボランティア組織がある 37%

### 2 ボランティアの何が問題なのか

博物館ボランティアの定義(社会教育調査 平成20年度)

「展示資料の解説、会場整理への協力、展示資料の収集・制作等における学芸員への協力などの無償の奉仕活動をいう」

ボランティア活動の内容

「学芸補助、接客補助、付帯作業、案内等、環境整備、事務補助、その他」

ボランティアとは何をする人のことなのか(大阪ボランティア協会)

昔のボランティアの三要素 「滅私奉公、無償、おせっかい」

社会奉仕をする人

今のボランティアの三要素 「自主性、自己学習、社会変革」

### 3 ボランティアと博物館との関係

ボランティア事業は、博物館の教育学習担当者が担当している場合が多い。

博物館にとって、ボランティアとは何をする人のことなのか

博物館の利用者に対する役割は

学びの場、自己確立の場となること

例えば 研究会参加者  
観察会参加者  
資料利用者、質問、展示見学

博物館にかかわることは、その場を活用した自己学習であり、そのことが同時に博物館の資料や情報を増やし、ネットワークなどを広げていく効果がある。（利用者はすべて、ボランティア）

#### 4 事例

- 施設従属型のボランティア  
博物館の補助活動
- 施設活動型のボランティア  
博物館を使った独自の組織活動
- 自主活動型のボランティア  
場として博物館を活用した独自活動

博物館ボランティアグループと、他の利用者グループとの関係

研究会、友の会、ボランティアグループなどの総合の関係を明確にすると、その館の利用者に対応する姿勢が明らかになる。

各地の博物館の例を見ていると、同じ名前を使ったグループでも、博物館からの位置づけの違い、その結果としての活動形態の違いが見られる。

⑤講義 (26日/15:00~15:50)

博物館利用者の実態と対応

徳川美術館企画情報部教育普及担当課長  
加藤 啓子

22年度実数

年間入館者数：約22万人

職員：常勤職員18名・嘱託4名(学芸職10名)

ボランティア：301名

1) 企画情報部の業務 学芸員3名+事務職2名

教育普及(一般から児童生徒まで)、広報活動(ポスター作成から取材など)

ボランティア対応・育成

2) 教育普及 20年の歩み ①夏休み子ども教室

②土曜子ども教室

③小中学校の受入(分散学習・体験学習・職場体験)

④小・中学校の先生方のための伝統文化体験プログラムセミナー

⑤出張教室

⑥補助金による教育普及教材の開発

3) 生涯学習 ボランティアと共に

高年齢者・障がい者対応

4) 来館者の分析

小中学校のアンケート結果

5) 課題 ①プログラム内容および教材の熟成

②手法の変遷(他館との交流)

③来館者・参加者の反応→対応

④次への引き継ぎ

1) 展望

## ⑥ワールドカフェ (26日/16:00~18:00)

東京国立近代美術館企画課主任研究員

一條 彰子

東京都美術館アート・コミュニケーション担当係長

稲庭 彩和子

(株)美術出版社「美術検定」事務局

高橋 紀子

<p>16:00~18:00</p> <h3>ワールドカフェ</h3>  <p>飲み物を持って、指定のテーブルにご着席ください</p>	<h3>ワールドカフェとは</h3> <ul style="list-style-type: none"><li>● 人々がオープンに会話し、</li><li>● 同時にネットワークを築くことができる</li><li>● 「カフェ」のような空間で、</li><li>● お互いの想いを共有したり、</li><li>● 知識や知覚を触発する</li><li>● 話し合いの方法。</li></ul>
---	--

<h3>ワールドカフェの進めかた</h3> <ul style="list-style-type: none"><li>● ラウンド1 &lt;テーマについて探求する&gt;</li><li>● ラウンド2・3 &lt;アイデアを他花受粉する&gt;</li><li>● ラウンド4 &lt;気づきや発見を統合する&gt;</li><li>● 全体セッション &lt;集合的な発見を収穫する&gt;</li></ul>	<h3>カフェのマナー</h3> <ul style="list-style-type: none"><li>● 考えと経験をオープンにし、貢献しましょう</li><li>● 話は短く、簡潔に</li><li>● 理解するため、よく聴きましょう</li><li>● アイディアをつなぎ合わせてみましょう</li><li>● 深い洞察や問いを探しましょう</li><li>● 愚痴や不平を言う、「ガス抜き」の場ではありません</li><li>● いたずら書きをしたり、絵を描いたりしましょう</li></ul> <p>♪ 会話を楽しんでください ♪</p>
---	---

ラウンド1  
(テーマの探求)

ミュージアム・エデュケーターの  
仕事とは何でしょう

どうあるべき?

理想は?

ラウンド2  
(他花受粉)

ミュージアム・エデュケーターの  
仕事とは何でしょう

どうあるべき?

理想は?

ラウンド3  
(テーマの掘り下げ・他花受粉)

良いエデュケーターになるためには  
何をすべきでしょうか

どうすれば?

ラウンド4  
(統合)

良いエデュケーターになるためには  
何をすべきでしょうか


どうすれば?

全体セッション

ミュージアム・エデュケーターの  
仕事とは何でしょう

良いエデュケーターになるためには  
何をすべきでしょうか

沈黙の時間



例えば...  
「ワールドカフェで印象に残ったキーワード」  
「研修後に実行しようと考えていること」など

## 〈参考サイト〉

株式会社ヒューマンバリュー

<http://www.humanvalue.co.jp/service/wcafe/>

ワールド・カフェ・ネット

<http://world-cafe.net/>

## 〈参考図書〉

ワールド・カフェ～カフェ的会話が未来を創る～

アニータ・ブラウン デイビッド・アイザックス 著

香取一昭 川口大輔 訳

ニューマンバリュー出版 2007年

ワールド・カフェをやろう！

香取 一昭 大川 恒

日本経済新聞出版社 2009年



⑦講義・事例報告（27日／9:30～12:00）

学校と博物館の「連携」

美濃加茂市民ミュージアム学芸専門監

可児 光生

1. さまざまな「連携」のかたち

2. 実態と課題

(1) 「連携」によってもたらされること

◇学校側から

◇博物館側から

(2) 「丸投げ」と「ひとりよがり」の改善のために

(3) 支援体制の充実

3. 「連携」の成果と評価

4. 「連携」に際して求められるもの

◇博物館として

◇博物館スタッフとして

⑦講義・事例報告（27日／9:30～12:00）

学校と博物館の「連携」／事例報告

千葉県立房総のむら 打田 未来  
岡山県立美術館 岡本 祐子

～メ モ～

⑧教育プログラム体験/⑨ディスカッション (27日/13:00~18:00)

I 「盲学校のためのスクールプログラム」

東京国立博物館博物館教育課ボランティア室長

鈴木 みどり

同上 教育普及室主任研究員

藤田 千織

～メ モ～

⑧教育プログラム体験/⑨ディスカッション (27日/13:00~18:00)

Ⅱ 「屏風に物語をつくりだす鑑賞プログラム  
—洛中洛外図屏風と江戸図屏風を題材に—

国立歴史民俗博物館情報資料研究系助教  
佐藤 優香

～メ モ～

⑧教育プログラム体験/⑨ディスカッション (27日/13:00~18:00)

Ⅲ「貝体新書：おとなが学ぶ二枚貝  
ー参加者が経験をもとに科学的推理をするプログラム」

京都大学総合博物館館長  
大野 照文

～メ モ～

⑩グループワーク（28日／9:30～13:45）

教育プログラムの開発・検証・再開発・ディスカッション

ハンズ・オン プランニング代表

染川 香澄

千葉県立中央博物館環境科学研究科上席研究員

林 浩二

1. 9:30～10:00 1日の流れ紹介  
チーム分け
2. 10:00～11:20 プログラム作り、企画書記入
3. 11:20～12:00 発表 各チーム3分（発表2分＋質疑1分）  
企画書提出（拡大コピーを会場に掲示）

（昼 休 み）

貼り出された他チームの企画書にポストイットでコメントをつける

・いいね！（グリーン）、なぜ？（イエロー）、こうしたら？（ピンク）、署名

4. 13:00～13:30 昼休みをはさんで、他チームにコメント
5. 13:30～13:50 コメントを受けて作戦会議
6. 13:50～15:00 改良プログラム作り（間に適宜休憩）  
完成次第提出のこと
7. 15:00～15:30 発表 各チーム3分（発表2分＋質疑1分）
8. 15:30～15:45 まとめ

# プログラム企画書

No. \_\_\_\_\_

ミュージアム・エデュケーター研修 2011/09/26～28 於 東京国立博物館

プログラム 名称	
作成者 (所属)	
対象者	
場所	
テーマ	
期間・時間	
プログラム  内容 道具 時間経過 活動場所	
受けた助言	
助言を受けて 改善した点	

## 【 参考 】 ミュージアム関係助成情報

文化庁HP／文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業  
[http://www.bunka.go.jp/bunkazai/shinko\\_kasseika/index.html](http://www.bunka.go.jp/bunkazai/shinko_kasseika/index.html)

文化庁HP／芸術文化助成財団協議会：会員財団事業案内 [http://www.bunka.go.jp/geijutsu\\_bunka/08katsudoushien/jigyoannai\\_1.html](http://www.bunka.go.jp/geijutsu_bunka/08katsudoushien/jigyoannai_1.html)

文化庁HP／文化財に関する助成・助成団体  
<http://www.bunka.go.jp/bunkazai/aigo/josei.html>

芸術文化振興基金HP  
<http://www.ntj.jac.go.jp/kikin>

公益財団法人助成財団センターHP  
<http://www.jfc.or.jp/main.html>

財団法人地域創造HP  
<http://www.jafra.or.jp/j/guide/support/art-tradition01/index.php>